

駒ヶ根市文化財

名称	大宮五十鈴神社
所在地	赤穂北割一
所有者	大宮五十鈴神社
説明	<p>大宮五十鈴(いすず)神社は、古くは上穂(うわぶ)の里と言われた頃より、上穂村の中心的な神社であったようである。当時は「伊鈴社」と呼んでいた。上穂という所は、小氏族が各地域毎に散村的な村々を形成していた。それら同族の村には氏神が祀られていて、上穂八社の起源であろうと思われる。古代社会支配制度の中で、これらの村々は郷(ごう)という支配制度に組み込まれていた。それらの集村が上穂の郷である。伊鈴社は上穂の郷の郷司に係わる神社であったと思われる。それが明治の神社統合により、上穂八社を合祀し大宮五十鈴神社とし上穂の氏神となったのである。</p> <p>本殿は、大正元年諏訪郡中州村宮大工、原善次郎が棟梁となって建立した。神楽殿は明治 39 年(1906)、宝蔵は明治 43 年(1910)の建立である。また、拝殿は平成 17 年(2005)に建て替えられた。</p> <p>その他、大鳥居(明神鳥居(みょうじんとりい)型式)・常夜燈・狛犬・石燈籠などがある。また、合祀した社殿や、近藤氏(旗本)の寄進した石燈籠がある。</p> <p>社宝としては、戦国時代の甲冑が所蔵されている。この甲冑は破損が甚しいが、戦国時代の遺品として貴重なものである。</p>



本殿



拝殿



大鳥居

駒ヶ根市文化財